

問1 東北地方の交通網について述べた文として、福島県の地理的特徴をふまえて正しい説明となっているものを選びなさい。 (2022年 京都府公立入試 類似)

1. 日本で最も長い国道4号が県内を南北に貫いており、関東地方と東北地方を結ぶ物流の大動脈となっている。
2. 東北地方の北端に位置するため、国道4号の終点として北海道へのフェリー航路と直結している。
3. 県内を国道4号が通過しているが、この国道は日本海沿いに整備されているため秋田県や山形県へのアクセスに優れている。
4. 国道4号は栃木県と新潟県の間を通過するルートとなっており、福島県内を通ることはない。

問2 東北地方の日本海側に位置する都市の気候統計に見られる特徴として、正しいものはどれですか。 (2020年 福島県公立入試 類似)

1. 冷害の原因となる「やませ」の影響を強く受けるため、1月の平均気温は氷点下にはならないが、8月の平均気温が24度未満になることが多い。
2. 暖流である日本海海流の影響を強く受けるため、1月の平均気温は5度を上回り、雪ではなく雨が多く降る。
3. 冬の季節風の影響を強く受けるため、1月の降水量は100mmを超えることが多く、北部の地域では1月の平均気温が氷点下になる。
4. 季節風が奥羽山脈によって遮られるため、1月の降水量は100mm未満となり、冬は乾燥して晴天の日が多くなる。

問3 東北地方の各県の特徴について述べた次の説明のうち、県名と県庁所在地の名称が異なる県に関する記述として適切なものはどれですか。 (2021年 香川県公立入試 類似)

1. サクランボの生産量が全国1位である県の県庁所在地は山形市であり、県名と都市名が異なっている。
2. 本州で最も広い面積を持つ県の県庁所在地は盛岡市であり、北上盆地を中心に農作物の栽培が行われている。
3. 東北地方で最も人口が多い県の県庁所在地は宮城市であり、周辺の平野部では稲作が盛んである。
4. 東北地方の6県は、すべて県名と県庁所在地の名称が一致しており、行政上の混乱を防いでいる。

問4 仙台駅から鉄道を利用して移動する場合、盛岡駅へは約39分で到着できるのに対し、気仙沼駅へは約129分を要します。このように、仙台駅から各都市への所要時間に大きな差が生じる要因として、東北地方の交通網の整備状況から説明できる最も適切な理由はどれですか。 (2026年 広島県公立入試 類似)

1. 仙台駅と盛岡駅の間には東北新幹線が整備されており、高速での移動が可能となっているから
2. 気仙沼駅は沿岸部に位置しており、新幹線が通っているものの運行本数が極めて少ないから
3. 気仙沼駅へは新幹線と在来線の両方が並行して走っており、駅での乗り換えに時間を要するから
4. 盛岡駅へ向かう路線は、地形が平坦であるため在来線が新幹線に近い速度で運行されているから

問5 東北地方のある地点の気候統計において、12月と1月の降水量が200mmを超えて年間でも多く、夏よりも冬の降水量が多いという特徴が見られる場合、その地点の場所と気候区分の組み合わせとして最も適切なものはどれですか。 (2019年 富山県公立入試 類似)

1. 宮城県仙台市平野 — 太平洋側の気候
2. 岩手県沿岸部 — 太平洋側の気候
3. 山形県内陸部 — 日本海側の気候
4. 北海道の東部 — 北海道の気候

問6 福島県内陸部に位置する若松は、太平洋沿岸の小名浜に比べて冬の気温が低く、年間の気温の変化（年較差）が大きいという特徴があります。若松の1月の平均気温が約1度、年間の降雪日数が約102日であるのに対し、小名浜の1月の平均気温は約4度、降雪日数は約24日となっています。若松において、冬の降雪日数がこれほどまでに多くなる地理的な要因として最も適切なものはどれですか。 (2024年 岩手県公立入試 類似)

1. 黒潮（日本海流）の影響で大気が不安定になり、雲雲が発達しやすいため
2. 日本海側から吹き込む湿った季節風の影響を強く受けるため
3. 太平洋側から吹き込む湿った南東の季節風が奥羽山脈を越えてくるため
4. シベリア高気圧から吹き出す乾いた風がフェーン現象を起こして冷え込むため

問7 日本の諸地域に関するある統計において、人口が約228万人で東北地方の経済の拠点となっており、製造品出荷額等が約4兆3853億円、海面漁業漁獲量が約184千tという高い数値を示している県はどこですか。 (2024年 千葉県公立入試 類似)

1. 長崎県
2. 青森県
3. 宮城県
4. 熊本県

問8 岩手県盛岡市などの統計において、1993年や2003年には7月・8月の平均気温が摂氏20度を下回るほど低くなり、これに伴って米の収穫量が平年の半分以下まで激減したことが記録されています。このような深刻な冷害を引き起こした気象現象の説明として、最も適切なものを選びなさい。 (2018年 徳島県公立入試 類似)

1. 夏にオホーツク海側から吹き込む、冷たく湿った北東の風の影響
2. 冬に日本海側から山を越えて太平洋側に吹く、乾燥した北西の風の影響
3. 夏に山を越えて吹き下ろす、高温で乾燥した風の影響
4. 夏に南方の海洋から吹き込む、高温で湿った南東の季節風の影響

問9 東北地方の太平洋側では、1980年や1993年のように、米の作況指数が著しく低下し、農業に深刻な打撃を与える年があります。このような事態を招く気象現象の説明として、最も適切なものはどれですか。 (2019年 長野県公立入試 類似)

1. オホーツク海高気圧から吹き込む冷たく湿った北東風「やませ」により、夏の気温が上がらず冷害が発生する
2. シベリア高気圧から吹き出す乾燥した北西の季節風が奥羽山脈を越え、太平洋側に大雪をもたらす
3. 小笠原高気圧の勢力が強まることで、太平洋側から高温で乾燥した風が吹き続け、深刻な干害が発生する
4. 発達した低気圧が日本海を通過する際、山を越えて吹き下ろす熱い風によって気温が急上昇するフェーン現象が起こる

問10 1993年や2003年の統計において、岩手県の米の作況指数（平年を100とした収穫量の割合）が30や73といった非常に低い値を示し、全国平均や西日本の山口県を大きく下回る深刻な不作となった主な要因は何ですか。 (2025年 山口県公立入試 類似)

1. フェーン現象による高温障害
2. やませによる冷害
3. 冬の季節風による大雪害
4. 台風の直撃による風水害

問11 東北地方の太平洋側に位置する県のうち、青森県の南、宮城県の北に接し、本州で最も広い面積を持つ県はどこですか。 (2019年 広島県公立入試 類似)

1. 岩手県
2. 秋田県
3. 福島県
4. 青森県

問12 東北地方の太平洋側では、夏にオホーツク海高気圧から冷たく湿った北東の風が吹き込み、稲の生育が妨げられることがあります。このような自然条件に対応するために行われてきた、農業の取り組みとして最も適切な説明はどれですか。 (2020年 京都府公立入試 類似)

1. 夏に吹く乾燥した季節風を利用して、水田から畑作へと大規模な転換を行い、ブランド野菜の生産に特化させた。
2. 温暖な冬の気候を活かした「二毛作」を推進し、夏の収穫不足を補うために麦の栽培面積を拡大した。
3. 「やませ」による冷害を克服するため、寒さに強く食味も優れた「銘柄米」を開発し、産地ブランド化による差別化を図った。
4. 大規模な「干拓」によって農地を広げ、冷害の影響を分散させるために、品質よりも生産量を重視した安価な品種を増産した。

答え合わせ・解説

問1	答え 1 日本で最も長い国道4号が県内を南北に貫いており、関東地方と東北地方を結ぶ物流の大動脈となっている。	福島県は東北地方の南端に位置し、古くから関東と東北を結ぶ交通の拠点として発展してきました。日本で最も長い国道である国道4号は、東京都から青森県までを結んでおり、福島県内を南北に通過することで、東北地方全体の経済や生活を支える重要な役割を果たしています。
問2	答え 3 冬の季節風の影響を強く受けるため、1月の降水量は100mmを超えることが多く、北部の地域では1月の平均気温が氷点下になる。	東北地方の日本海側の気候は、冬の季節風によってもたらされる雪の影響で、冬（1月）の降水量が他の地域に比べて多くなるのが大きな特徴です。特に山地や北部では1月の平均気温が氷点下となり、積雪量も多くなります。「1月の降水量が100mm未満」や「8月の平均気温が24度未満（やませの影響）」といった選択肢は、東北地方の太平洋側の気候の特徴と混同しないよう注意が必要です。
問3	答え 2 本州で最も広い面積を持つ県の県庁所在地は盛岡市であり、北上盆地を中心に農作物の栽培が行われている。	岩手県は本州で最大の面積を持ち、その県庁所在地は盛岡市です。宮城県は県庁所在地は仙台市であり、宮城市ではない点に注意が必要です。山形県はサクランボの生産で有名ですが、県名と県庁所在地（山形市）は一致しています。東北地方で県名と都市名が異なるのは、岩手県（盛岡市）と宮城県（仙台市）の2県のみです。
問4	答え 1 仙台駅と盛岡駅の間には東北新幹線が整備されており、高速での移動が可能となっているから	東北地方の交通網は、仙台市を中心に放射状に整備されています。特に東北新幹線が通る盛岡駅などは、仙台駅からの距離があっても短時間で移動できるという特徴があります。一方で、気仙沼駅のように新幹線が直接通っていない都市への移動には、在来線などを利用する必要があります。そのため、新幹線整備済みの都市と比較して所要時間が長くなる傾向があります。
問5	答え 3 山形県の内陸部 ― 日本海側の気候	冬の降水量が夏よりも多くなるのは、冬の季節風によってもたらされる雪の影響を強く受ける日本海側の気候の典型的な特徴です。山形県は奥羽山脈の西側に位置しているため、この日本海側の気候に属します。一方で、岩手県や宮城県などの太平洋側の地域は、冬は乾燥して晴天が多くなるため、冬の降水量は少なくなります。
問6	答え 2 日本海側から吹き込む湿った季節風の影響を強く受けるため	若松は福島県の内陸部に位置する盆地であり、冬には日本海側から湿った冷たい季節風が吹き込みます。この季節風が奥羽山脈などの山地を越える際に雪を降らせるため、日本海側の気候に近い「多雪」という特徴を持ちます。一方、沿岸部の小名浜は、山脈によってこの季節風が遮られるため、冬は乾燥して晴天が多くなり、降雪日数が少なくなります。
問7	答え 3 宮城県	東北地方において約230万人という最大の人口規模を持ち、仙台市を中心に経済の拠点となっているのは宮城県です。宮城県は三陸海岸という優良な漁場を背景に、海面漁業漁獲量が全国でも上位に位置することが大きな特徴です。熊本県も漁業が盛んですが、人口規模や東北地方の拠点という文脈から、提示された統計は宮城県に該当します。
問8	答え 1 夏にオホーツク海側から吹き込む、冷たく湿った北東の風の影響	東北地方の太平洋側で記録された平均気温の低下と米の減収は、冷たく湿った北東の風である「やませ」による冷害が原因です。特に1993年は歴史的な記録不足（平成の米騒動）として知られています。選択肢にある「山を越えて吹き下ろす高温で乾燥した風」はフェーン現象、「冬に吹く乾燥した北西の風」はからっ風の説明であり、これらは冷害の直接的な原因とはなりません。
問9	答え 1 オホーツク海高気圧から吹き込む冷たく湿った北東風「やませ」により、夏の気温が上がらず冷害が発生する	東北地方の太平洋側では、夏にオホーツク海高気圧から「やませ」と呼ばれる冷涼な北東風が吹き込むことがあります。この風が長期間吹き続けると、夏でも気温が上がらず、日照時間も不足します。その結果、稲の生育が妨げられる「冷害」が発生し、過去には米の収穫量が平年の半分以下になるような深刻な凶作を招きました。
問10	答え 2 やませによる冷害	1993年や2003年は、夏に北東風の「やませ」が強く吹き続けたため、東北地方の太平洋側を中心に記録的な日照不足と低温に見舞われました。これにより、岩手県などの地域では米がほとんど収穫できないほどの深刻な冷害（不作）となりました。一方、西日本に位置する山口県などはこの風の影響を直接受けないため、東北地方と比較して作況指数の低下は限定的でした。
問11	答え 1 岩手県	東北地方の東側に位置するこの県は、北を青森県、南を宮城県に挟まれており、広大な県土を有しています。沿岸部の南部には複雑な海岸線が見られ、地理的な特徴を活かした産業が発達しています。
問12	答え 3 「やませ」による冷害を克服するため、寒さに強く食味も優れた「銘柄米」を開発し、産地ブランド化による差別化を図った。	東北地方の太平洋側では、夏に「やませ」と呼ばれる冷涼な北東風が吹くことで、気温が上がらず作物が育たない冷害が度々発生してきました。これに対し、農業試験場などで寒さに強い品種の研究が進められた結果、「コシヒカリ」や「ひとめぼれ」のように味も良く寒さにも強い品種が誕生しました。これらは「銘柄米」としてブランド化され、市場価値を高めることで地域農業の安定と発展に寄与しています。